

本校の学力・学習状況調査の結果をお知らせします

平成27年度
甲府市立北新小学校

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月21日（火）に全国の小中学校で実施されました。

本校でも当日は欠席もなく、6年生22名が全員参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・算数・理科）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。また国語と算数は、A：主として「知識」に関する問題と、B：主として「活用」に関する問題に分かれています。教科に関する問題に本年度は理科が加わりましたが、理科は主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題が一体的に出題されました。

この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導等に役立てることを目的としています。

去る8月26日に文部科学省から本校の結果が送られてきました。本校でも、調査結果の分析を行ってまいりましたが、このたび分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思ます。

なお、調査に参加しました6年生一人一人には、既に個人票・問題・解答コピーを渡しており、学級において答え合わせ等を行っております。また、個別懇談において具体的な課題について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

分析結果の概要

1 本校の状況（全国との比較）

本校の結果は、国語A、国語B、算数A、算数B、理科ともに全国平均、県平均よりも上回っています。

調査問題によって正答率に高低はありますが、特に国語Aにおける「話すこと・聞くこと」「読むこと」、算数Bでは「数と計算」、理科の「自然事象についての知識・理解」において高い正答率を示していました。

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもありますように全国正答率の±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。

2 本校の主な課題

国語

国語A 主として「知識に関する問題」からみえた課題

- 既習漢字の読み書きにおいて、特に、漢字を正しく書くことの正答率が低いものがあった。（「びょういんに行く」の書き。）
- 新聞のコラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く設問の正答率が若干低い。

国語B 主として「活用に関する問題」からみえた課題

- 「文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く」設問の正答率が若干低い。

算 数

算数A 主として「知識に関する問題」からみえた課題

- 「異分母の分数の減法の計算」の理解が不十分である。(5 / 9 - 1 / 4)
- 「示された見取図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取る」(作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く)設問の正答率が若干低い。

算数B 主として「活用に関する問題」からみえた課題

- 「平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質の理解」が不十分である。

理 科

主として「知識に関する問題」・「活用に関する問題」からみえた課題

- 「メスシリンダーの名称」「メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方」についての正答率が若干低い。

3 教科における主な改善点

国 語

- 漢字を習得させるためには、漢字を正しく読んだり書いたりする機会を計画的に設定し、繰り返し練習したり、既習の漢字を意図的に復習したりできるように指導する。
- 実生活の中で書く文や文章(ノート、連絡帳、掲示物など)において正しい書き方を日常的に確認する習慣が身に付くように指導する。
- 読み聞かせ等を利用して多くの物語に触れる機会を増やすとともに、読書活動のさらなる推進を図るように努める。
- 引用の仕方を指導する(「」でくくるなど)と同時に、引用したことについて自分の思いや考えを書くことを指導する。
- 話し合いの場において、話し手の目的や意図は何か、伝えたいことは何か等といった観点に基づいて、相手の話の内容を十分聞き取ることができるよう指導する。

算 数

- 基礎的・基本的な計算の技能の習熟や維持を図るために、適度の繰り返し練習の機会を設ける。
- 基礎的な事項については、繰り返し取り上げて、基礎的な事項を活用する中で習熟や定着を図ることができるようにする。
- 分数を具体物、図、数直線等を用いて表すことで、分数の大きさを実感できるように分かりやすく指導する。
- 事前に見通しを立てたり、事後に振り返ったりする学習を授業の過程に位置づけ、より深い理解を生み出すようにする。

理 科

- これまで同様観察や実験を取り入れた授業を中心に据えるなかで、基礎的・基本的な事項を明確にし定着を図る。

4 質問紙調査の主な特徴

【生活習慣について】

- 「朝食を毎日食べていますか」という設問に対して「している」「どちらかといえばしている」と全員の児童が回答している。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は全国や県平均より高かった。

【自尊感情】

- 「自分には、よいところがあると思いますか」という設問については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合は全国・県を下回ってる。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という設問については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合は全国・県を下回ってる。

【学習習慣】

- 家で、学校の宿題を「している」「どちらかといえばしている」と全員の児童が答えている。
- 家で、学校の授業の予習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は全国・県より大きく下回っている。
- 「家で、学校の授業の復習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童は全国・県より大きく下回っている。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」については、「30分以上1時間より少ない」と回答した児童が一番多い。

【家庭における学習以外の過ごし方】

- テレビやビデオを1日2時間以上視聴している者の割合は、全国平均・県平均よりやや高い。
- テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）については「1時間以上2時間より少ない」と答えた児童が多い。

【読書】

- 「読書は好きだ」と回答している児童の割合は、全国平均、県平均を上回っている。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という設問に、「1時間以上」と回答している児童の割合は、全国平均、県平均を上回っている。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に、「週に4回」「週に1～3回程度」行くと答えた児童の割合が全国に比べて高い。

【学習に対する意識・言語活動】

- ほとんどの児童が「国語の授業は大切だ」「算数の勉強は大切だ」と思っている。
- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」児童の割合は、全国平均、県平均を上回っている。
- 「理科の授業で、理科室で観察や実験を週1回以上行っている」と回答している児童の割合は全国平均、県平均を上回っている。
- 「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」と回答している児童の割合は全国平均、県平均を上回っている。
- 授業の中で分からないことがあったら、「その場で先生に聞く」「授業が終わってから先生に聞く」と答えた児童が多い。
- ほとんどの児童が「5年生までに受けた授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答している。
- 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した児童の割合は全国平均より低い。

【その他】

- 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」と回答している児童の割合は全国平均より高い。
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している児童の割合は全国平均を上回っている。
- 「学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めている」と回答している児童の割合は全国平均より高い。

5 質問紙調査からの改善点

- * 「早寝・早起き・朝ご飯」を基に、基本的な生活習慣の定着・維持について今後も各家庭と連携して推進する。
- * 読書好きの児童が多く、図書館等の利用状況もよいので、これからも読み聞かせ等を継続し、より一層読書活動の推進に努める。
- * 宿題はよくやっているが、宿題だけにとどまらず、家庭学習を充実させたい。授業の復習や家庭学習の方法等を指導し、家庭と連携しながら学習時間の確保、家庭学習の継続に努める。
- * 様々な活動の機会を与えるとともに、活動の支援を行い充実感や達成感を与え、自己有用感や自信をもたせるように指導する。
- * 朝の会のスピーチや、授業における小グループでの意見交換等、自分の考えをもたせる時間や発表する場を多く設定し、発表に対する肯定的な評価を加え、自信をもたせたい。また様々な考えを受け止めるような集団の雰囲気作りにも努めていく。
- * これまでも実践してきたところであるが、児童がはっきり意識できるように授業のはじめに目標を示し、授業の最後に学習内容を振り返るような授業形態をつくっていくように努める。
- * テレビやビデオ視聴、及び携帯電話やスマートフォンを使ったゲームをする時間が長い児童も見られるので、家庭学習等に影響を与えないよう、家庭と連携して改善を図るよう努める。

上記の特徴のほか、「学校のきまりを守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している児童も多いことから、大人に近づいていく児童にとって、単に学力だけでなく人としてあるべき姿、規範意識が徐々に身につけていることが伺えました。このことは、家庭・地域における社会性の構築が図られている表れだと思っております。

終わりに

本校の児童は落ち着いた雰囲気の中、毎日の授業に一生懸命に取り組んでいます。

この結果についてはあくまで平均値によるものであり、今後改善を要する項目もあります。ぜひこの機会に、生活習慣や学習時間等を振り返り、各家庭においても具体的に取り組んでいただきたいと思います。この先にある中学校生活・高校生活等も含めた進路を見据える中で、それぞれの児童の良さを認めながら、家族で将来の夢や目標等について話し合う機会をもっていただきたいと思います。

学校でも上記の結果をもとに、さらに授業に力を入れ、よりよい家庭学習のしかたについて指導し、児童自らが自主的に学習に取り組むことができるように働きかけていきたいと考えます。各ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整える等、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

